

# 西海ブロック水産業情報

NO. 84 (平成26年1月～3月)

## 増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>ノリ養殖: 12月26～28日に冷凍出庫し、1月2日から摘採が開始、1月中旬までは生産は順調であった。1月下旬からプランクトンの増殖、栄養塩の減少により、1月27日に色落ちが発生した。その後、2月に入るとプランクトン優占種がユーカンビアとなりながら増殖が継続し、色落ち程度、発生区域が進行、拡大し、2月中旬から沖合域を中心に網撤去が行われた。プランクトンの増殖および色落ちは3月31日まで継続した。色落ちが継続する中、3月10日ごろから一部の区域で3期作が行われ、1、2回摘採した。今漁期の生産枚数は11億枚(過去5年比82%)、生産金額108億円(過去5年比83%)、平均単価9.84円/枚(過去5年比0.11円/枚)であった。</p>	<p>・マガキ養殖 平成25年度は、17経営体が22基の筏を用いて生産され、昨年度並みの約50トンの収量となった。</p> <p>・サルボウ養殖 平成26年3月に実施した生息状況調査を基に26年漁期の漁獲量を試算すると、2,500トンと推定された。なお、直近5カ年のサルボウの漁獲量は、平成21年が2,258トン、22年が5,298トン、23年が3,135トンであった。また、ともに聞き取り調査の結果であるが、24年は3,500トン、25年は2,000トンと推定している。</p> <p>・ノリ養殖 採苗は、平年(H5-24)よりも9日遅い10月19日から開始され、芽付きが厚付き傾向ではあるものの、順調であった。秋芽網期は、育苗期の降水量が多く、低比重傾向となったため、ノリ芽の干出不足が危惧されたが、アカグサレ病・壺状菌病による被害も小さく、品質、生産量ともに良好で12月23日まで生産された。秋芽網期の生産は、生産枚数6.1億枚(前年比98%)、生産金額68.7億円(前年比92%)となった。</p> <p>冷凍網期は、12月26日から開始され、冷凍戻りも良く順調に生長した。海況は6年連続で発生していたアステリオネラ赤潮が1月6日に発生したが、例年より早く1月13日に終息した。赤潮終息後、栄養塩が低下傾向にあったことから、1月14日に西部漁場で色落ちが初認され、その後1月16日にスケルトネマ赤潮が中・西部漁場で発生したため、色落ちは中・南部漁場まで拡大した。さらに、1月下旬頃からユーカンビアが増殖し始め、2月6日にはほぼ全域で赤潮となったため、河口漁場を除く全域で色落ちが発生した。このため、冷凍網期の生産は、生産枚数11.3億枚(前年比82%)、生産金額118.9億円(前年比87%)となり、11年ぶりに12億枚、120億円を下回った。このようなことから、平成25年度漁期の総生産枚数は、17.4億枚(前年比82%)、生産金額は187.6億円(前年比89%)となった。 【種苗生産】</p> <p>・アカウニ: 1～3月に、放流用約50万個(10～15mmサイズ)、養殖用約10万個(10～15mmサイズ)を配布</p>		<p>○養殖マダイ、カンパチにおいて、低水温による生理障害が確認された。(1～3月)</p> <p>○養殖マダイに於いて、生殖腺発達の影響による生理障害が確認された。(3月)</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・1月中下旬に山川湾でPseudochattonella Verruculosaの赤潮が発生したが漁業被害はなかった。</p> <p>・放流用ヤコウガイ種苗(殻径@30cm)約1万個出荷</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産予備試験 10月下旬から試験を開始し、51日齢で取り上げた稚魚(76尾:平均全長23.0mm、生残率1.7%)を継続飼育中。3月27日現在で36尾が生残し、(143日齢)、平均全長40～50mmとなった。21日齢、51日齢、78～87日齢、93～95日齢の稚魚のVNN感染の有無についてPCR検査を行った。いずれも陰性であった。</p>		<p>ヒトエグサ養殖:一部地域を除き全県的な収穫は好調の様相</p>